

特定ラジオマイクの高度化に向けた技術的条件の報告案概要

(情報通信審議会技術分科会 小電力無線システム委員会)

○ デジタル方式の導入により

- ・ 同じエリア(コンサートホール等)で同時使用が20本
- ・ 安定した伝搬距離が約60m (10mW)

⇒ 最大約70本が利用可能

⇒ 約100m以上の伝送も可能(最大50mW)

大規模なミュージカル・オペラ等でも
十分な数のマイクの確保が可能



広大なアリーナ・スタジアムでも
自由な移動が可能



デジタル方式の特定ラジオマイクの技術条件(案)の概要

区分	内容	備考 (現行アナログ方式)
変調方式	位相変調・周波数変調・直交振幅変調 (デジタル方式)	FMアナログ方式
占有帯域幅	最大288kHz(想定遅延 5m秒以下)	最大330kHz(標準110kHz)
空中線電力	最大50mW (伝送距離約100m)	最大10mW (伝送距離約60m)
周波数帯	最大770MHz～806MHzを想定(注1)	779-788MHz、 797-806MHz (注1)
その他	同時使用ch数(注2) 最大72ch	(同左) 実質20ch程度

注1; いずれも放送用中継装置(FPU)との共用周波数帯

注2; デジタルにおいては288KHzの占有幅で36MHzを使用する場合。アナログにおいては110KHzの占有幅で18MHzを使用する場合(アナログは142chの割当に対して、音質確保のためにch数を抑えて運用されている)

(参考) ラジオマイクの例
(アナログの例)



ハンド型

ツーピース型